

- 日本は世界に類をみない超高齢化社会を迎えている[1]



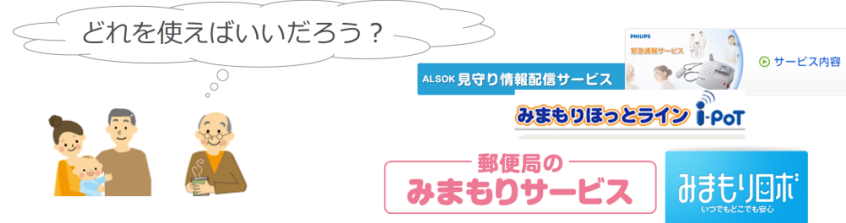
2012年の人口割合

2060年の人口割合

- 高齢者の生活における質の向上 (Quality of Life) が求められている
- 高齢者が安心して過ごせるような仕組みが必要
 - これを実現する手段の1つとして見守りサービス

[1]内閣府, “平成24年版高齢社会白書”, “http://www.cao.go.jp”,

- 多様な見守りサービスの中から、消費者自身が目的にあったサービスを選ぶ必要がある

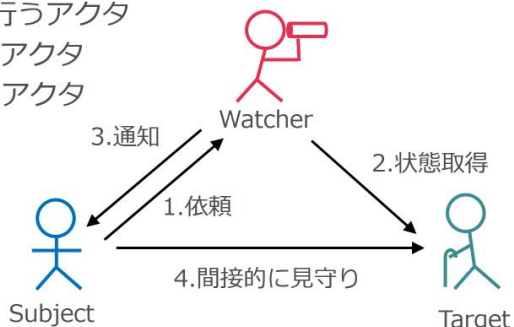


多様な見守りサービス

- 見守りサービスを体系立てて分析・整理する手法があれば役立つのでは？
 - 消費者の意思決定, 企業のサービス開発の指針

- 見守りサービスにおける主要な役割を果たす人物(アクタ)を一般化するモデル

- Subject: 見守りを行うアクタ
- Watcher: 確認するアクタ
- Target: 見守られるアクタ



- アクタの役割を果たす人物を分析

- 5W1Hの観点を利用して見守りサービスを分析できるフレームワーク

- 見守りサービス全体を分析する項目

- What: サービス利用の目的 (例)元気であることを確認
- Why: サービスを利用する理由 (例)離れて住んでいる

- 3者モデルの各種アクタの分析を行う項目

- Who: 誰が, When: いつ, Where: どこで, How: 手段

分析項目	分析内容	
What	見守りサービスを何のために利用するのか?	サービス全体
Why	見守りサービスをなぜ利用するのか?	
Who	誰が実施するのか?	各種アクタ
When	いつ持っている役割を実施するのか?	
Where	どこで役割を実行するのか?	
How	どのような手段で役割を実行するか?	